

「ラジオとテレビの違いを考えよう」に関する解説

監修：中橋 雄 武蔵大学社会学部メディア社会学科准教授

何故、本学習をすることが重要なのか

誰もが情報発信できる現代社会において、メディアの特性を理解し、主体的に情報を読み解くとともに、表現・発信できる能力が求められています。そのため、本学習のように「メディアが伝える情報は、送り手の意図によって構成されているということ」や「メディアには、それぞれ独特の表現様式があるということ」について学ぶことが重要です。

まず、本学習では、送り手の立場に立つ経験をすることから、普段情報を得ているメディアがどのように構成されているか学ぶことができます。たくさんある情報の中から取捨選択がされているということも実際やってみないと気付かないことがあります。この学習から、何を伝え、何を伝えないか、それを決定するのは送り手（自分）であることを実感できます。

また、ラジオとテレビを比較することによって、学習者は、メディアにはそれぞれ独自の表現様式があることを理解することができます。例えば、テレビであれば映像、音声の組み合わせで情報を伝えます。ラジオは音声ですが、その分、想像力をかきたてるような言葉遣いの工夫や音響効果・BGMによる演出の工夫があります。伝えたいことを伝えるための工夫、わかりやすい説明をしたり、気持ちを惹きつけたりするための工夫を知ることによって、日常生活における伝え合う場面で生きて働く表現力を身につけることができるでしょう。

何に注意して本学習を実施すればよいか

特に注意したい点は、自分たちの制作するメディアが、誰に、どのように役に立つのか実感できる状況を教師がデザインすることです。それは、学習者の学習意欲を高めることに直結します。つまり、制作以前に「誰のために、何のために、メディア制作を行うのか」という相手意識・目的意識を明確にし、制作の過程において、その目的を達成できているかチェックをすることが重要です。

「日常会話で使う言葉」と「ラジオで使う言葉」は、まったく同じものではありません。独特のテンポ、注意を惹きつける工夫、音響効果や BGM との組み合わせなどによって、異なる印象を与えることができます。私たちが情報を伝える際に使うことができるのは言葉だけではなく、言葉と他の情報と組み合わせることで表現することができます。そうした表現の工夫を考えることが、人々のコミュニケーションを豊かなものにすることを、学習者に実感させるとよいでしょう。